

## 令和元年度第1回横須賀市自殺対策推進協議会会議録

- ・ 日 時： 令和元年7月31日（水）午後3時から午後5時まで
- ・ 場 所： 横須賀市保健所 第一研修室
  
- ・ 出席者： 大滝紀宏、奥原孝幸、樫福宏征、河野伸子、工藤幸久  
小砂哲太郎、後藤健一、小林利彰、今野幸子、丹木幸代  
塚田美保子、對馬秀典(代理)、中島直行、橋本健司、藤尾聡允  
松山公紀、三橋政義、三堀浩二、森山由実、山田孝一  
湯浅 亮（敬称略、五十音順）
  
- ・ オブザーバー： 出石珠美、梅澤徳之、加藤幸次、岸 信明、田中知己  
椿 雄一、富澤真由美、古谷久乃、森田佳重、山野井徹  
渡邊久美子（敬称略、五十音順）
  
- ・ 事務局： 山岸哲巳 : 健康部長  
脇 範泰 : 健康づくり課長  
小菅俊彦 : 健康づくり課長補佐  
増田浩子 : 健康づくり課主査  
亀田千尋、田杭真澄、山口雅子

### 1 開会

### 2 傍聴3名の報告

### 3 健康部長挨拶

### 4 構成員の紹介 2名欠席、1名代理出席

### 5 自己紹介

### 6 座長、副座長選任

座長は大滝構成員が推薦を受け承認された。

副座長は奥原構成員が推薦を受け承認された。

座長、副座長挨拶

## 7 議事

<座長>

事務局に、議事（1）横須賀市自殺対策計画および自殺の現状について説明を求めた。

<事務局>

資料1横須賀市自殺対策計画、資料2概要版に基づき説明した。

<座長>

質問はあるか。

自殺対策計画策定に関わった者の視点からすると、市民アンケート結果において、市民が自殺対策の取り組みを知らないが55%となっている。

市民の自殺対策に関する理解を深めていきたい。

男性40,50代の自殺は減少しているが、女性、若者、高齢者の自殺は減少していない。今後の課題となる。

<座長>

議事（2）各機関の自殺対策の取り組みについて、各構成員から報告を求めた。

<後藤構成員>

医師会としては精神疾患の理解を深め、早期に適切な診断や治療に結びつけるように取り組んでいる。うつ病を中心とした精神疾患、身体疾患に伴うこころの問題について理解を深めるため「かかりつけ医のためのうつ病セミナー」を定期的で開催している。

周産期のメンタルヘルスに関しては、産婦人科医、精神科医、行政と連携し研究会、研修会を企画開催している。

<河野構成員>

横須賀共済病院と保健所の自殺未遂者支援の取組についてお伝えする。

自損行為で救命救急センターに入院された患者さんは、身体治療を優先し、安定を待って、横須賀市の未遂者支援の説明を行っている。本人同意のもと情報を保健所に連絡し、早ければ未遂当日に保健所の訪問によりベッドサイドで初回の面談となる。一人でも多くの人を「つなぐ」ことを大切にしている。未遂者の調査からは、4割を超える支援介入となっている。救命救急センターの師長からは、病院と保健所のコミュニケーションが

とれており、連携がスムーズに図られているとの意見もあった。

#### <座長>

横須賀市の自殺未遂者支援の取組は全国で注目されている。

精神科医師の常勤が1名という環境において自殺対策が継続できたことは、両病院救命センターの師長の協力によるところが大きい。

病院と保健所の連携も支援の充実につながっている。

#### <塚田構成員>

小学校では命を大切にすることを育む取り組みを行っている。小学生の自己肯定感を高め、お互いを認め合うことができる関係を築く力を大切にしている。

また、困ったときに担任の先生をはじめ、周囲の大人に相談ができるよう、SOSがだせる環境作りにも取り組んでいる。

#### <三橋構成員>

人間関係づくりは教育活動全体を通して行っている。

いじめ対策については、アンケート調査を始め個別、二者、三者面談を行うなど各学校、隙間の無い取り組みを行っている。この取り組みが自殺対策にもつながっていると考える。

#### <樫福構成員>

神奈川県弁護士会では、貧困問題対策部会が中心となって、暮らしと場所の相談会（無料）を定期的開催している。特徴としては、弁護士、精神保健福祉士、臨床心理士3名で話を聞き、法律問題と心の問題双方の相談を受ける体制となっている。

自死遺族のホットラインを行っており、全国から電話が入る。九州等遠方からも相談が入り、地域の弁護士会等を紹介している。自殺の原因となる、労働問題、家庭環境、いじめと様々あるが、弁護士会としては、心の問題を抱える前に、各種法律相談で対応していきたい。

#### <橋本構成員>

司法書士会では、市内行政センターにおける相談会の他に生活保護申請の同行支援、医療機関におけるベッドサイド法律相談等を行っている。

また、地域包括支援センター向けの勉強会も実施している。日本自殺予防学会等へ情報収集を行い資質の向上に努めている。

#### <湯浅構成員>

三署代表して横須賀署から報告する。

自殺企図者に関して、日中は警察相談窓口で対応している。自殺を図ったとの 110 番が入れば 24 時間適宜保護し、医療機関に引き継いでいく。精神問題に関するケースは保健所や適切な医療機関等につなげていく。

#### <奥原構成員>

大学での直接的支援はないが、臨床実習においては、学生であって、社会に一步を踏み入れ社会との接点を持つことで、時として危機的状況に陥る学生の支援を行うこともある。後方支援として、自殺予防街頭キャンペーンにもボランティアとして積極的に参加を案内している。ゲートキーパーについても周知を図っている。

#### <今野構成員>

12 月 1 日に民生委員・児童委員の 3 年に 1 度の全国一斉改選が行われる。全国 23 万人の民生委員・児童委員のうち三分の一が交代することになる。民生委員の高齢化、なり手不足は全国的課題となっている。また、支えての支援も必要となる。

自殺対策への取組は、相談機関との連携、行政につなげる、ゲートキーパー研修への積極的参加を目指している。

#### <座長>

支える人を支える体制作りが必要となる。

#### <中島構成員>

横須賀こころの電話ボランティア募集の案内。

電話ボランティアは高齢化傾向となりギリギリのメンバーで対応している。支援の中心は傾聴であり、相談者の思いをくみ取るボランティアの力量も求められる。人材育成、資質向上のため、9 月から 12 月の夜間に研修会を実施する。

#### <藤尾構成員>

全国自死遺族総合支援センターは、全国各地で自死遺族分かち合いの会を開催している。会のメンバーは医師、臨床心理士等多岐にわたる。

横須賀市の特徴としては、顔見知りが多く地域の分かち合いの会に来られない人がおり、都内や横浜の会に参加している例もみうけられる。だれか地元の人に会うのではないかと不安を感じている人が多いように感じている。参加者は比較的に女性が多い傾向となっている。各地の分かち合いの会と連携して支援を継続していきたい。

### <三堀構成員>

横須賀市内には 128 か所の居宅介護支援事業所がある。

介護保険のサービスが主の高齢者支援となる。横須賀市の高齢化率は 30%を超えており、高齢独居、高齢二世帯、認知症支援等複合的な困難事例が増加している。中でも高齢独居男性は困りごとをなかなか表に出さないため、訪問を重ね、サインがでたら地域包括支援センター、行政等と連携を図る取組を目指している。

高齢者の自殺が増加傾向とことから、連絡協議会としても、自殺対策についての取組も具体的に考えていきたい。

### <森山構成員>

(当日配布資料に基づき説明)

雇用情勢の先行指標と言われている新規求人倍率は、この 6 月ハローワーク横須賀管内では 1.38、全国 2.36、神奈川県は 1.84 となっており、横須賀はリーマンショック後の不景気から回復しているが、全国、神奈川と比較すると低い状況となっている。

有効求人倍率に関しては、6 月は 0.76 となっており、1 人に 1 つの仕事がない状況となる。全国 1.61 神奈川 1.19 となっている。最高値は東京で 2.36 となっている。

人手不足の時代といわれているが、簡単に就職先が見つかる状況とはいえない。

正社員を含んだフルタイムの求人において、事務職は有効求人倍率 0.14 となっており、10 人に 1 つやっと仕事があることになり、かなり厳しい。

逆に建設関係は有効求人倍率 5.17 であり、1 人に 5 つ以上の求人となっている。

人手不足と言われる業種とは、看護、介護、保育、運輸、警備、建設が代表的となっている。特に建設業はかなり厳しい現状で人手不足から経営困難に陥る可能性もある状況となっている。

1 人でも多くの人に安定した仕事についてもらい、生活の安定を確保してもらうことが、自殺防止対策につながっていくと考える。

### <座 長>

イタリア・ギリシャなど、仕事がなくとも自殺率が低い国から学ぶことがあるのではないかな。

### <松山構成員>

労働基準監督署では、横須賀市自殺対策計画の P.76「職場におけるメンタルヘルスの推進」にあるように、自殺に至る前のメンタルヘルス対策について事業場に周知指導を行っている。

多くの職場では、働き方改革関連法、過重労働対策、労災防止に目が向いてしまう傾向にあるが、メンタルヘルス対策にも積極的に取組んでいくよう指導している。

また、3年前にストレスチェック制度が法制化されていることについても周知徹底を図っている。

専門機関の紹介や、メンタルヘルス・ポータルサイト「こころの耳」の活用奨励等を通じて、事業場のレベルアップを図り、自殺対策に結び付けていく。

#### <工藤構成員>

国が推進している小規模企業の持続的経営を重点施策として掲げ、推進している。健康経営への取組としては、経営者の健康留意を促している。

今年度は、さらに従業員の健康対策について経営者にヒヤリング等を通して支援しながら検討していく。働き方改革につながる有給休暇取得アップや時間外労働の問題もハローワークと連携しながら進めていく。

神奈川県が進めている企業の持続的経営を目指す未病対策についても、神奈川県と連携して取組んでいく。

#### 市民公募2名

##### <丹木構成員>

これまでの話を伺う中で、ゲートキーパーの役割が重要であると再認識した。

家族関係が希薄となり役割を担えない現状の中で、自殺対策についてどのように取組むべきかを考えていきたい。

##### <小砂構成員>

自殺対策策定委員会に引き続き市民として参加することで、実際に立てた計画がどのように進んでいくのかを見守りたいと考え手を挙げた。

日頃、精神科病院の作業療法士として患者さんと向き合う中で自殺を選択する方が少なからずおられる。ライフワークとして自殺予防に寄与できることがあればと考え研修等に参加したりしてきた。推進協議会で共有していきたいと考えている。

#### <座長>

質問や意見はあるか。

##### <小砂構成員>

小学校でのSOSに関する教育について、それをキャッチする先生方の研修等の取組について伺いたい。

また、こころの電話相談においては対象が20歳から70歳とのことだが、参加が難しい人もいる中で、インターネットやEラーニングなどでの受講は検討されているのか。

#### <塚田構成員>

SOS をキャッチする側の研修に関して、教員は支援教育課が行っている研修講座等に参加し、養護教諭は対象の研修講座に参加している。

また日頃、学校に配置されているスクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーと相談連携を図ることで、SOS のキャッチに心がけている。何よりも、アンテナ高くこどももの SOS をキャッチすることが重要と考える。

#### <中島構成員>

若者を対象としての研修についてインターネット等でとのことだが、電話の場面でのやりとりは電話の声を通してとなるため、対面の研修が望ましいと考えている。

若者を対象としたところの相談となると別の議論となる。若者の電話が少ない。電話以外の相談を検討する中では、インターネット等の新たな手段の研修もこれからの課題となる。

#### <座 長>

いじめの問題では SNS の取組も語られている。今後の重要な課題となる。

SOS を受け止める課題は学校のみならず広く対応が求められる。

#### <丹木構成員>

以前、横浜市金沢区の民間ところの電話に携わっていた。死にたいと電話してくる人は、家族や友だちには話せないが、電話だと話せると語る。

心の孤立にどう手を差しのべるのかを考えている。

#### <藤尾構成員>

禅寺の住職をしており、夜中でも電話や来訪があり相談を受けている。

少子化となり、逃げ場のない環境となっているように感じる。

学校は命をかけて行く所ではないという考えも必要と思われ、SOS が出せる環境作りが求められる。つらい場所から逃げることができる支援や、それを受け止める場作りも重要となる。

#### <座 長>

だれにも相談できないと思っている人に、どう手を差し伸べ支えるのかは重要なテーマだ。

#### <丹木構成員>

社会が複雑となり、誰かを道連れにして死ぬという報道があると、ネット等で、一人で死

ねばという社会の反応がある。そこにも現代の病理があるのではないか。

<座長>

なかなか答えのでない問題であり、今後も考えていかなければならない。

続いて議事（3）今後の横須賀市自殺対策推進協議会の進め方について自殺対策推進協議会の大きな目的は、横須賀市自殺対策計画をどのように実行していくかということであり、どのように会議を進めていくかについて、意見を伺いたい。

事務局からいくつか提案があるので紹介する。

- ① グループワークによる事例検討（自殺未遂者支援・多問題、困難事例等）
- ② 講演会の形式。構成員の中から、あるいは他市町村等から講師を招く。
- ③ ワークショップ、テーマを設定し多職種によるグループを作った話し合い。
- ④ 従来通りの形式による会議。

会議の在り方について、意見はあるか。

<奥原構成員>

メンバーが集まる機会の中々ないので、2時間という限られた時間になるので、全体的な話とグループワーク併せての会議もよろしいのではないか。

<河野構成員>

様々な役割の方が自殺対策について協働していることを知る会なので、それぞれがどのような取組をしているか情報共有することで、孤立させず、「つなぐ」に役立つ会議となるのではないか。

<三橋構成員>

このような関係者が一堂に会し議論する場があることが、学校としてはありがたい。各学校関係者に発信していくことができる。

<樫福構成員>

これまで自分の担当した事件を思い返し、法律家として多様な支援があれば助けられたのかも知れないと思うこともある。遺族の支援もできることを知ることができた。個別の事例をディスカッションすることも希望したい。

<山田構成員>

警察にも自殺したいという事案がかなりある。殆どが助けてもらいたいという SOS だ。

自殺未遂者は行政につなぐ等の支援をしている。

警察は全国レベルであり、たとえば SNS で九州から管轄内に関する通報があれば、命を救うことを最優先として現場に急行し対処している。

<今野構成員>

事例を詳しく聞くことができるとよい。小さいグループワークだと意見交換もしやすいと考える。

<座 長>

次回以降の進め方は座長預かりとし、検討して皆様に提示する。

議事（４）その他として、周知したいこと等があるか。

<松山構成員>

協議会の進め方については、アウトプットとして成果があることが望ましい。個別の事例を、各機関が役立てるのはなかなか難しい点があるので配慮いただければと思う。各機関で協議結果が活用できるとよい。

概要版に記載のある市民意識調査の結果について、経年変化を見ていくことが、アウトプットの把握になり得るので、今後も調査を継続していただきたい。

<座 長>

基本的には、自殺対策に関してできることは広く取り組んでいきたい。

自殺者数が少しずつ減少していることから、提言を受け止め今後も検討していきたい。

議事を終了する。

<事務局>

事務局より連絡事項

1. 9月10日、自殺予防街頭キャンペーンのボランティア募集の案内。

昼は追浜駅、夜は横須賀中央駅で開催する。

2. 本協議会は年2回の開催予定である。次回は令和2年1月を予定している。

5 閉会

※この議事録は構成員等の発言を、事務局において要点筆記したものです。